

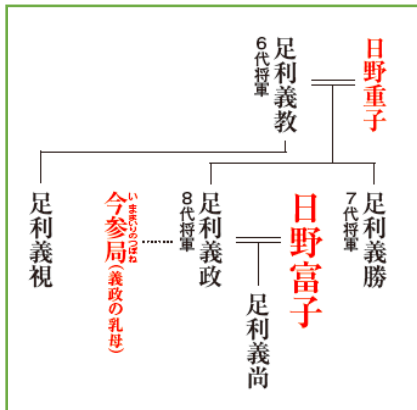
オンライン講座 日本史をにぎわせた女性たち II

テーマ : 「希代の悪女だったかどうか 日野富子」

日時 : 2022年 12月 13日

講師 : 林 和清 先生

当日参加受講生: 16名 (在籍 30名) 再視聴あり



実は何度教えて頂いても、複雑すぎて分かりにくい「応仁の乱」。

「日野富子」の生涯と併行して、乱の始まりから収束までをギュッと90分でお話しいただきました。

公家の姫から御台所に

永享2年(1440)藤原北家に属する日野家に生まれ、16才で大叔母にあたる日野重子の子、足利義政に嫁ぎます。1459年第1子が生まれますが、その日のうちに亡くなります。義政の乳母であり側室である今参局の呪詛が原因と訴え、今参局を琵琶湖・沖ノ島に流罪にします。他の側室4名も追放します。今参局は配流の途中で自害したとのこと。

応仁の乱

富子に男児が生まれなかったため、将軍の後継には義政の弟で仏門にいた義視が選ばれ、後見は管領細川勝元が務めることとなります。が、1465年富子に男児(後の足利義尚)が誕生したため、富子は義尚の将軍後継を望むようになり、山名宗全に協力を頼みます。

それより前から始まっていた管領畠山家の家督争いを収めるために将軍義政が介入しますが、優柔不断な振る舞いで畠山氏の義就と政長の対立は激化します。それぞれに加担する守護達が京都に集結し、京のまちや寺院を舞台に1467年応仁の乱が始まります。

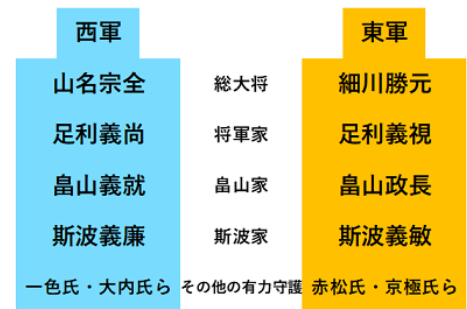
各地の家督争いをする大名家はこの乱を利用して領地での主導権を手に入れようと参戦していたのでしょう。

戦乱の収束

1473年3月に山名宗全が、5月に細川勝元が死去。一方で富子の勢力が拡大し、義政の実権は失われていきます。1476年には和睦の動きが加速し、12月に義視が義政に恭順を誓い、義政も義視の罪を不問に付すと返答します。1477年11月大内政弘をはじめとする諸大名ら(27万の兵)が撤収したことで西軍は事実上解体します。11月20日「天下静謐」の宴が催され11年に及ぶ大乱の幕が降ろされました。

京のまちはこの戦乱で貴重な建築物や芸術品、経典などを喪い被害は甚大でした。

応仁の乱 対立関係図



富子の動向

富子は東西両軍の大名に多額の金銭を貸し付け、米の投機も行うなどして、一時は現在の価値にして60億もの資産があったと言われています。将軍になった義尚を支えていましたが、義尚は1489年病死。翌年には義政をも喪います。「明応の政変」で新将軍を追放するなど晩年も幕府に大きな影響を与えていたとのこと。金儲けに集中した悪妻といわれること

が多い富子ですが、教養があり政治の駆け引きに長けていたという評価もあるようです。(担当 口村)



日野富子